

【背景と目指す姿】

- 日光市では、水田で約2ha、畑で約1haの里芋が生産され、小規模な生産者による取組みとなっている。
- 一方で里芋は、水田での栽培に適しており、新しい栽培技術である湛水栽培や機械化で、規模拡大と収益力の向上が見込まれる。
- なお、湛水栽培は、令和元年に当地域で試験導入した結果、従来の栽培法と比較して1割の収量増に加え、コガネムシなどの害虫被害の減少が確認されるとともに、除草作業が軽減された。
- そのため、湛水栽培と機械化一貫体系を確立して生産性を向上させ、収益性の高い里芋の産地化を目指す。

1 水田における露地野菜転換面積

現状(令和元(2019)年度):2ha → 目標(令和4(2022)年度):8ha

2 主な取組内容(令和2(2020)～令和4(2022)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> ・冬が農閑期となる他品目生産者を中心とした担い手の確保 ・湛水栽培の効果等について勉強会の開催等
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> ・生産規模拡大を目指す生産者など、経営規模に応じた機械の提案、導入 ・省力化に資する機械の実演会等を通じた普及促進 ・農協の選果機の利用による負担軽減 ・雑草や病害虫防除に効果のある湛水栽培の現地検討会や講習会の開催
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> ・JAかみつがを通じて加工向けの出荷先を開拓 ・親芋の有効活用を図るため、食品加工業者と連携した直接取引



畝間に水を流し入れる湛水栽培



機械による掘取り作業

